

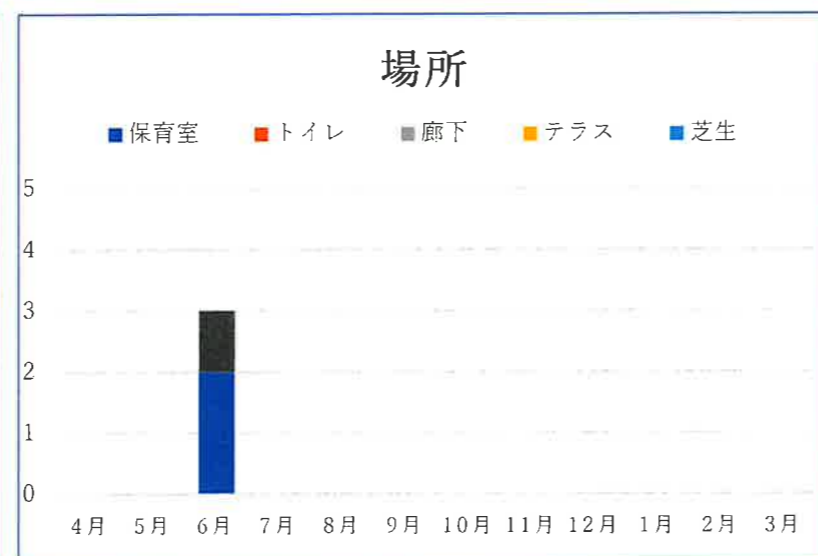
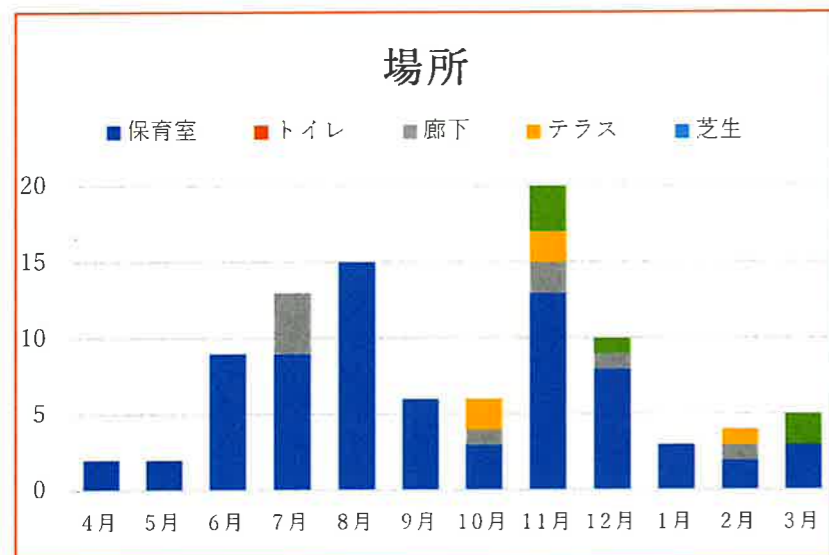
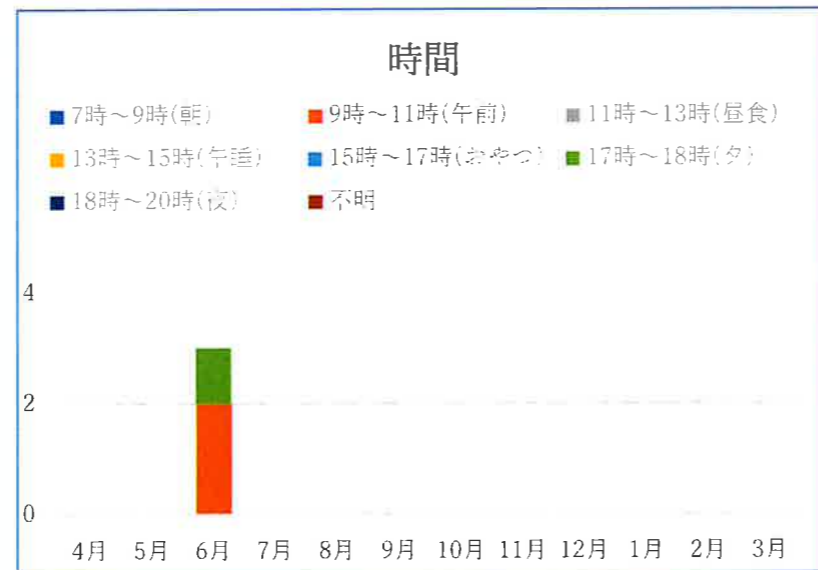
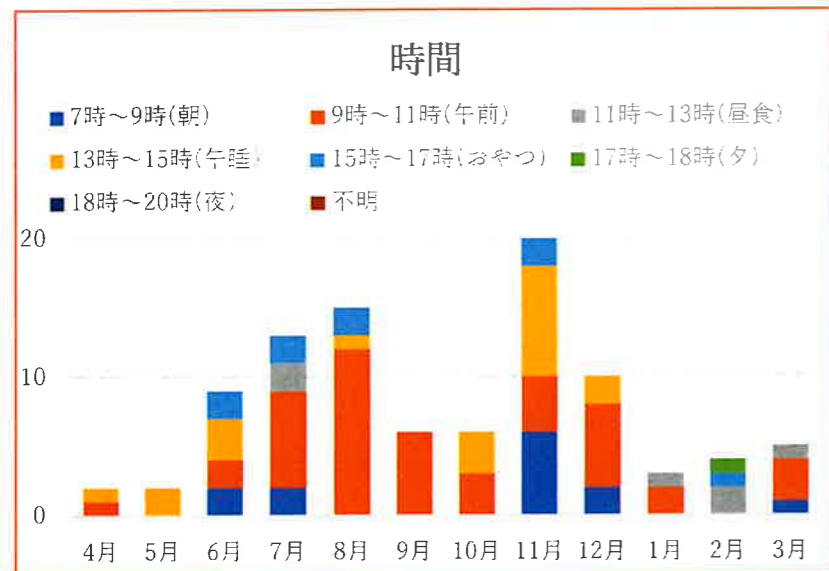
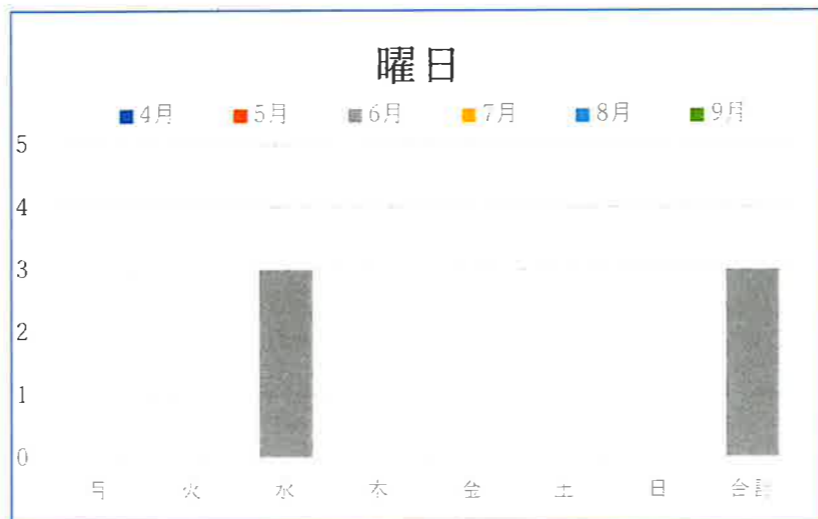
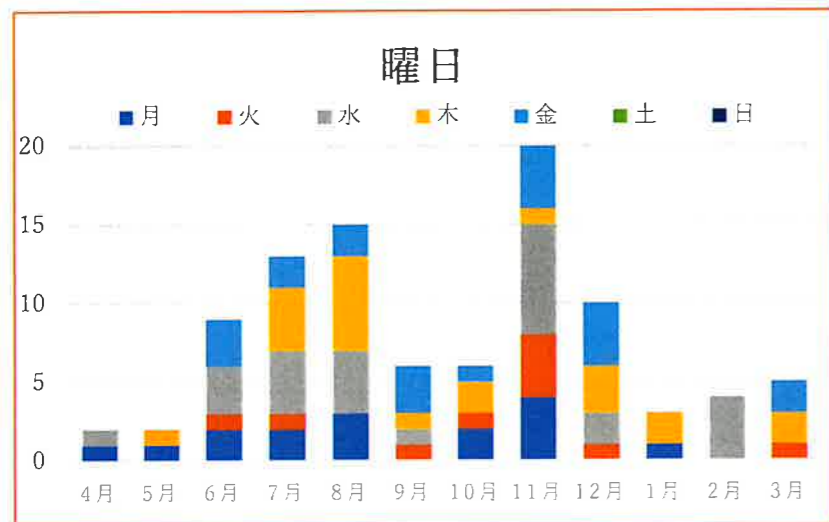
令和5年度 リスクマネジメント報告

〈虹組〉対応

〈虹組〉

インシデント

ヒヤリハット



[4月～6月]

それぞれの発達段階を把握し、どんなリスクがあるか職員間で確認していった。突然の出来事の際も、焦らず周囲の状況まで目を配るようにしていった。つかまり立ちからの横転などには注意しながら保育できるように保育者間で声を掛け合うことを意識していった。乳児はバランス感覚がまだ十分に発達していないため、抱っこから降ろす際は、手を離す時にしっかり体勢を安定させることや周囲が安全であるかの確認を行っていった。先月同様に危険がありそうな時には保育者間で声を掛け合いながら保育すると共に、なんでも口にいれてしまう年齢なので遊ぶ玩具などにも注意していった。

貼り薬（気管支拡張）が取れることが重なっている。一度剥がれた貼り薬（気管支拡張）を貼る際は帰る際や着替えの際、意識して確認していった。つかまり立ちをする子、伝い歩きをする子が増えており、頭部を床にぶつけることが増えている。どんな体勢で転んだかなどをきちんと把握できるように保育者配置に気がつけた。

[7月～10月]

座位の姿勢から転がるなどで頭部をぶつけることもあるのでサポートで入った保育者などにはその子どもの発達を伝え、保育者側のミスで怪我がないようにしていった。つかまり立ち、座位の姿勢からの転倒があり、それを防ぐことが出来ずに頭部をぶつけている。

保護者連絡も含め、場面を見ていなかったということはほとんどなくなってきている。

歩行が安定してきている子どもも多く、少しずつ頭部の怪我也なくなっている。それでもまだまだ転倒などは多いので気をつけて見ていく。

9月に引き続き歩行が出来るようになっている子どもの転倒が多い。

[11月～1月]

つかまり立ちからの転倒が多い。積み木などを投げる事が多く、危険な場面もある。座っている子を押しなどの転倒が増えている。

危険なことを表情、声のトーンなどにも配慮していき、継続的に伝えるようにしていった。

ほとんどの子が歩行の安定が見られてきたこともあり、転倒して頭をぶつけることもほとんどなくなっている。

[2月～3月]

室内での遊びでは肋木などから落ちそうになる場面もあるが、自分で体を支えることが出来ており、ほとんど怪我無く遊ぶことが出来る。積み木等を口に入れることがまだまだ多いので、口に入れたまま移動したりなどがないように声をかけていく。

堅いおもちゃを投げて遊ぶ子がいるので、投げてもいい物（ボールなど）を渡すなどして、危険がないように配慮していく。

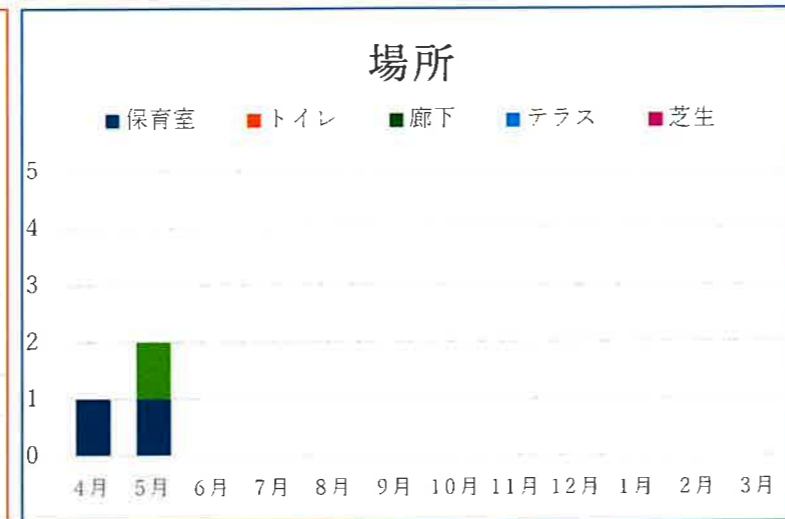
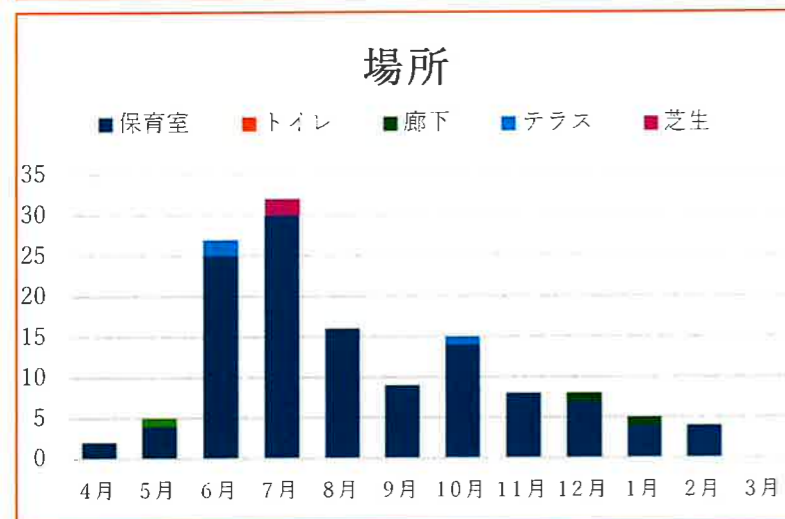
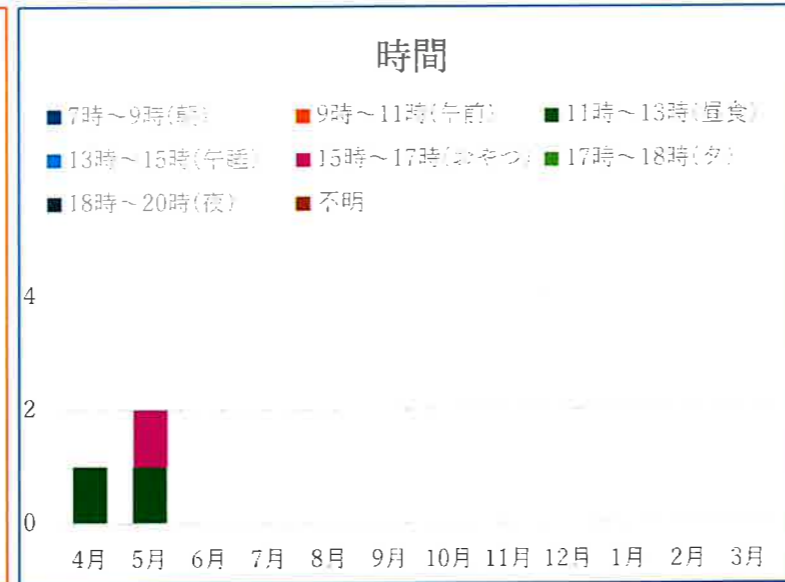
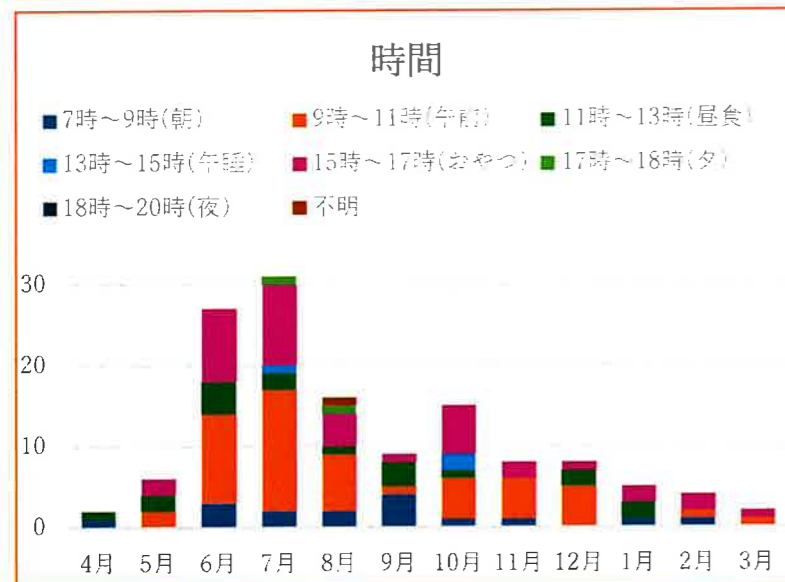
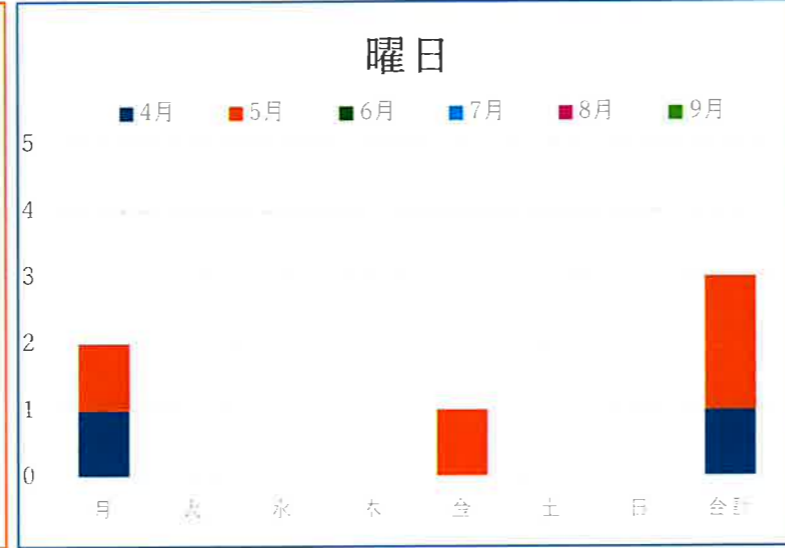
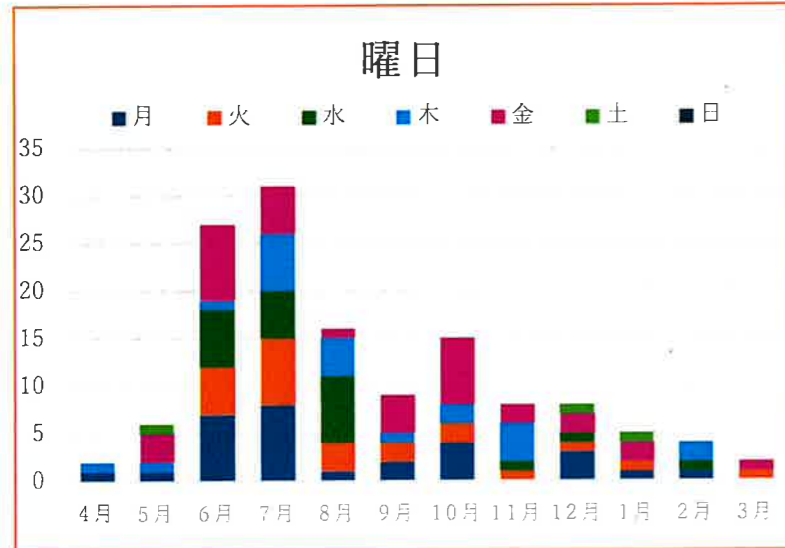
〈年間のまとめ〉

出来ることが増える一方で出来そうなことへの挑戦もしていく姿が多く見られ、肋木等からの落下などのインシデントが増えてしまった。意欲を大切にしながら危険がないように保育者がきちんと付き、遊びの保障をしていけるようにする。友達との関りで起きてしまうケガに関しては保護者へ都度伝えるようにして、今後も成長の過程として増えていくことを理解してもらう。

〈星組〉

インシデント

ヒヤリハット



[4月～6月]

遊びの幅が広がり、自分の気持ちもしっかり出てきているためトラブルや怪我が増えてきている。やりたいことや遊びたい内容などを受け止めながらも友達と一緒に遊べる環境や玩具を準備していった。子どもの色々な行動の予測をたてて大きなケガに繋がらないようにする。噛みつきが出てきているので、続かないように保育者間で共有観察、対応していった。トラブルが起きやすい時間や曜日、物場所の対策を職員間で共通理解をしていった。

[7月～10月]

玩具をめぐる噛みつきや引っ掻き、押して転倒することが多く見られたため友達とのかかわり方や気持ちの伝え方を寄り添って伝えていく。柵にのぼる、玩具入れに入る、走ることによる怪我が増えてきている為身体を動かして遊べる空間を十分に確保し環境を整えていく。自我が強くなり友達への興味や自分でやりたいことなどが芽生え怪我が絶えずに起きている。職員間で気を付けながらも、色々な経験を積みながら自己防衛を学んでいけるようにする。保護者との話をしていきながら噛む子の心のケアをしていくように考える。

[11月～1月]

走ったり、ジャンプしたりと動きがさらに活発となり、怪我が多くなってきている。マットを敷く位置に着目し考えていく。思いを言葉で伝えられるようになってきているが欲しいもの、やりたいことでいっぱいになってしまい言葉より先に口が出てしまう。「かして」「待ってね」ができるように保育者が寄り添っていく。

[2月～3月]

子どもたちと一緒に片づけを行い安全な環境を作っていく。バランスを崩したときにとっさに手が出せるよう引き続き様々な運動遊びを行っていく。肋木遊びで保育者は、手が届く位置で見守り、いざという時に支えられるようにしていく。

〈年間のまとめ〉

6月から12月にかけて噛みつきが目立っていたが、少しずつ言葉が出てきて思いを伝えられるようになってきている。

引き続き言葉で伝えられるように援助し、噛んでしまう子も保育者が気持ちを理解し代弁することで噛まなくても気持ちが伝わっているのだと知らせる。

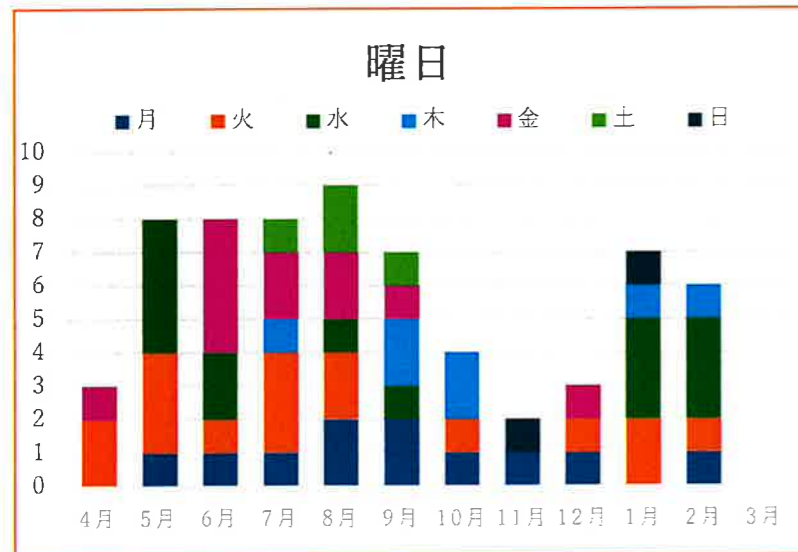
バランスを崩しての怪我や玩具を踏んで転倒することも多かったので、子どもと一緒にこまめに片づけを行い、安全に遊べる環境作りを心掛ける。

令和5年度 リスクマネジメント報告

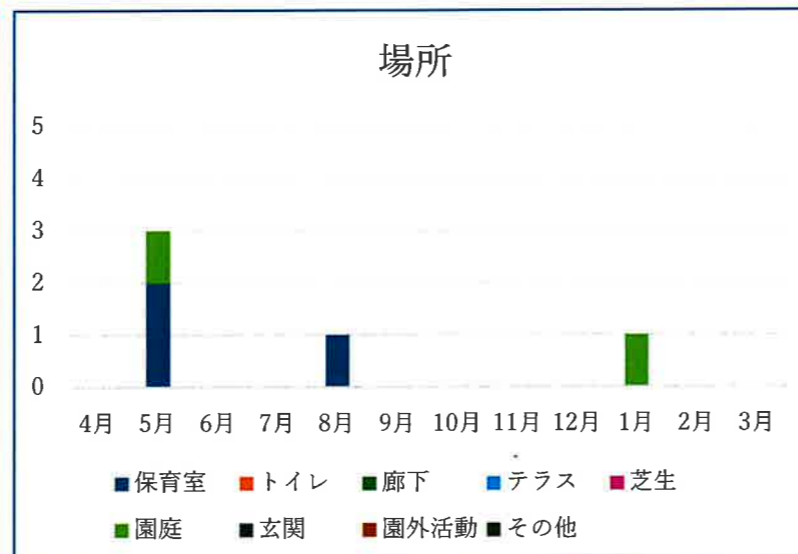
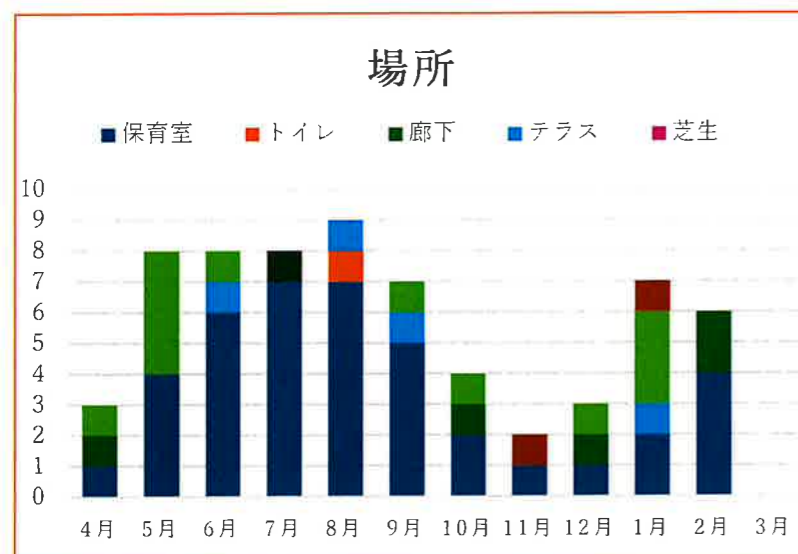
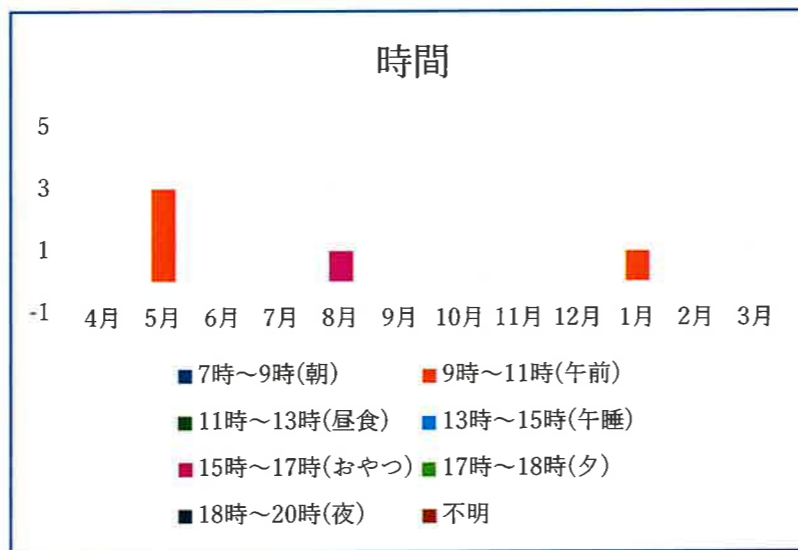
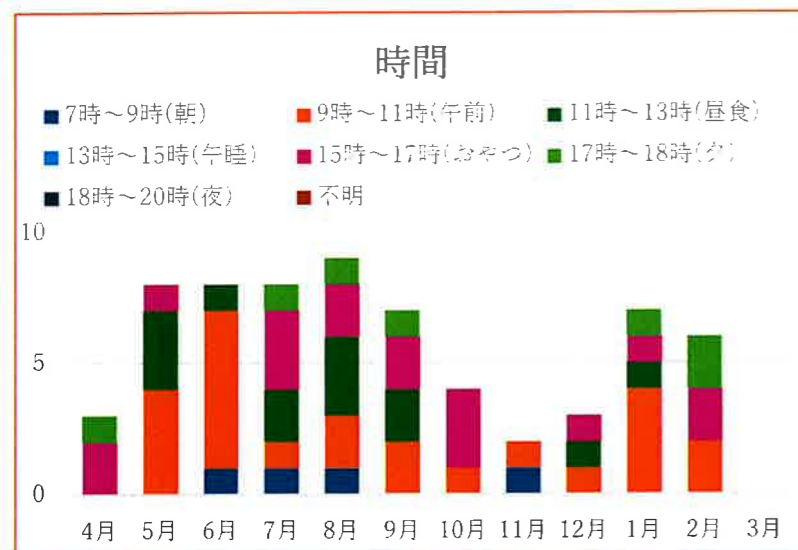
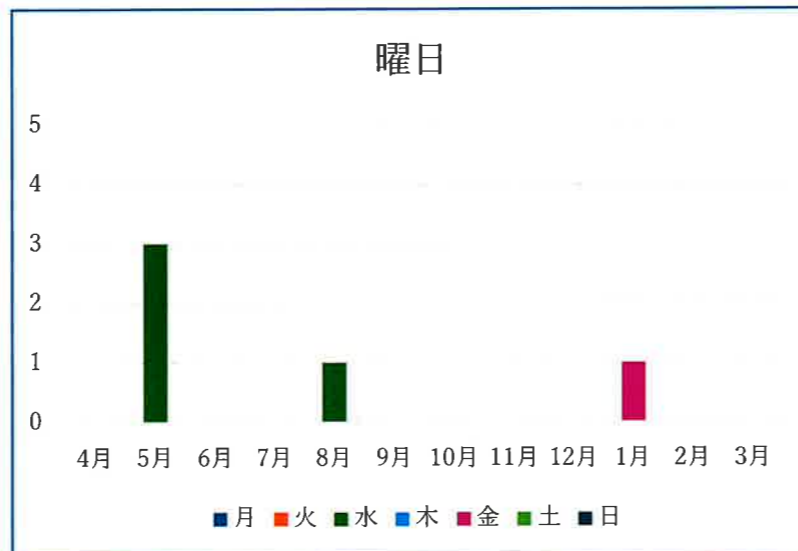
〈月組〉対応

〈月組〉

インシデント



ヒヤリハット



[4月～6月]

様々なことに興味を持ち、保育者が見てない場所でのトラブルがあった。子どもが興味を持っていることを理解し、保育者間での共有を図り見守っていく。言葉で伝えられるように言葉掛けをしていく。

玩具の取り合いでは、順番で使うこと、噛みつき・ひっかきはしないことを伝えていく。

取り合いをしている時は、そばで見守り手が出る前に保育者が間に入りながら対応する。

[7月～10月]

7月は雨も多く、戸外で体を動かす時間が十分に取ることが出来なかった。

室内で走って転ぶなどの怪我が多く目立った。

滑ったり、バランスを崩しての怪我が多かったため、バランス感覚を養える平均台やケンケンパなどの遊びを日常的に多く取り入れていく。

子どもの動きや遊びを把握できるようにする。肋木で遊ぶ際は下にマットを敷くようにする。

固定遊具に挑戦しようとする姿が増えた。着地に失敗したり、手が離れてぶつけてしまったり等の怪我が増えているので、一人ひとりの身体の使い方を把握する。また、遊具を行う際にサポートしすぎるのではなく自分の力で身体の使い方を覚えていけるように進めていく。

[11月～1月]

事前に子どもの動きを把握していれば防ぐことができた怪我なので、保育者間で声を掛け合い、見守っていく。

[12月～3月]

木の枝等を持ち歩く姿が増えてきたので、転倒した際に危険なことを全体で伝え、見つけたときは声をかけあえるように意識的に見守っていく。

友達とかかわっている中で意見のすれ違い等からトラブルに繋がり数件ケガが起きていたので、保育者が間に入りながら、それぞれの思いを受け止めながら関わった。

肋木や滑り台での怪我が多くあった。バランスを上手にとれるようになったので手を離して渡ろうとする姿も見られた。肋木では手を離さないことを繰り返し伝えていく。

〈年間のまとめ〉

5月～6月は噛みつきがあったが、気持ちを受け止め丁寧に関わっていくことで件数を減らすことができた。

固定遊具に挑戦する児が増え、着地の失敗や、手を放してしまいぶつけるなどの怪我が多かったが、後半は握り方や、身体の使い方を自分で体得しケガの件数は減っていった。

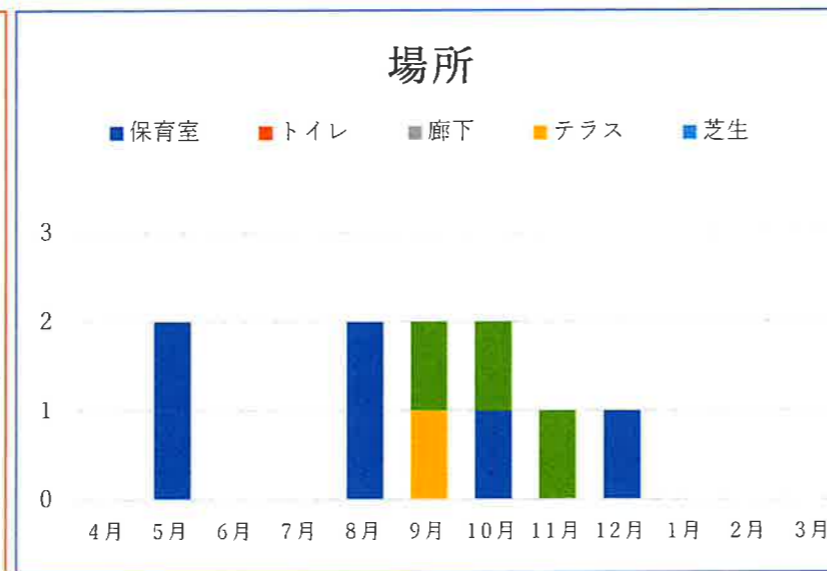
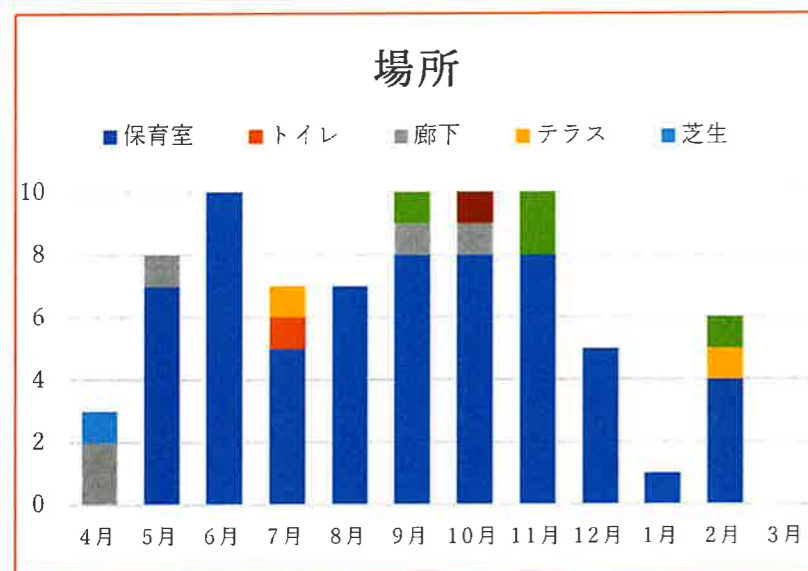
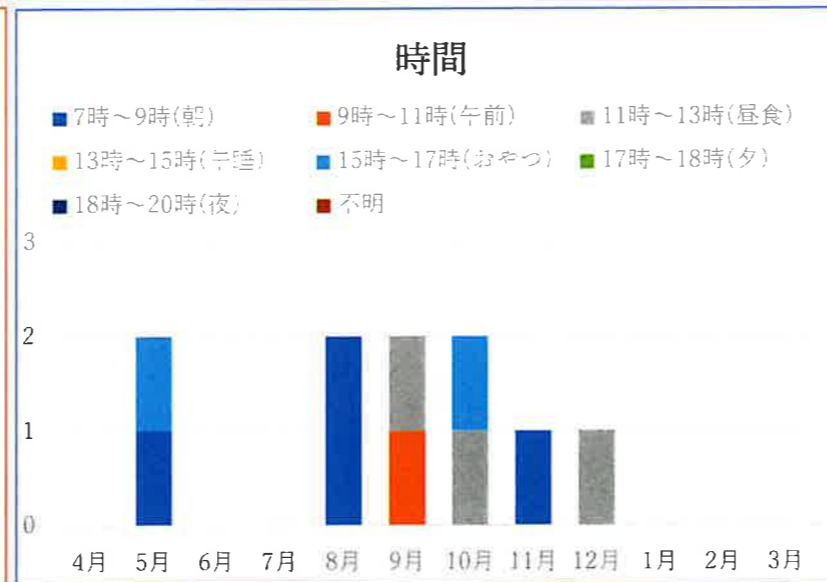
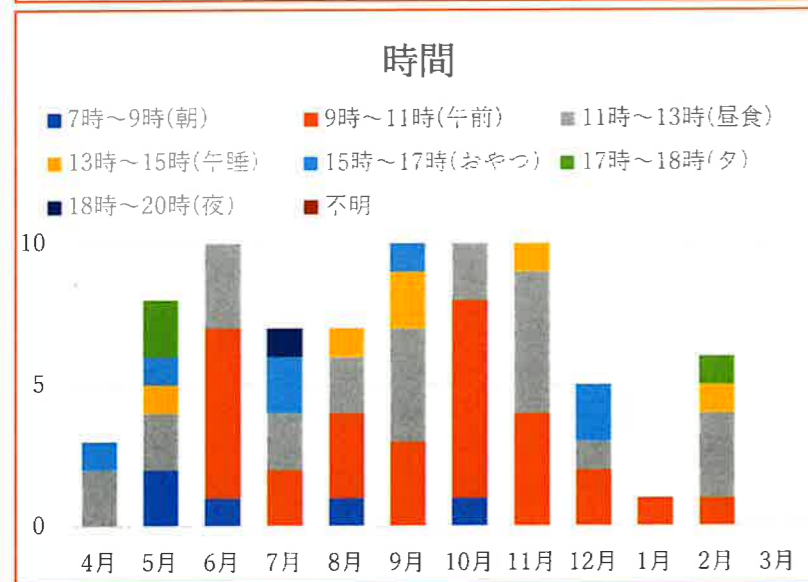
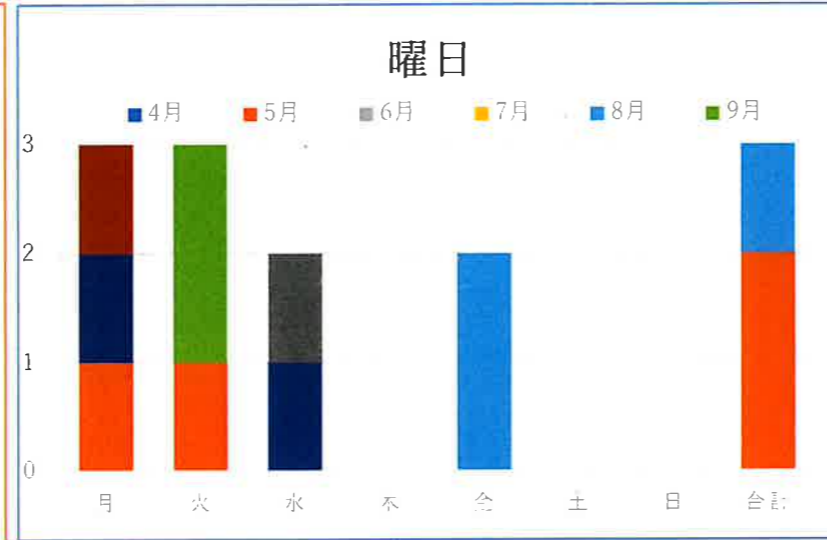
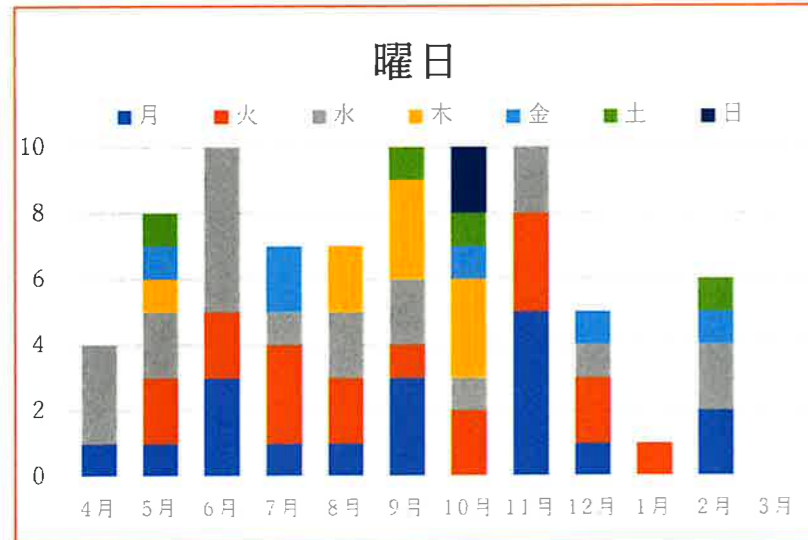
令和5年度 リスクマネジメント報告

〈太陽組 4歳〉

〈太陽組4歳〉対応

インシデント

ヒヤリハット



[4月～8月]

小さなケガも体験になるという考えをもって、声掛けのタイミングと見守ることを職員間で共有していった。

折り紙などの工作をする時間が増え、ハサミでのケガがあった。ハサミを使う時には必ず大人がつくように声を掛け合うようにする。未満児との関わり方について子ども達と話し合い、一緒に遊べるものを見つけるようにしていった(ブロック、積木など)。

友達同士で、気持ちのぶつかり合いがあり相互の話を傾聴し受け止めつつ、言葉で伝えていくように話していった。

酷暑で室内遊び増え、体力の発散方法が引き続きの課題となった。そのため、跳び箱や縄跳びなどを出して遊びを広げていくようにした。

[9月～12月]

廊下や保育室を加減なく走る姿が目立ち、室内での過ごし方や、動の遊びの出来るスペースの確保等、具体的な対策を行っていった。

給食を食べる部屋が午睡の部屋になるため、コット出しのタイミングを子どもたちと話し合い、危険がないように話していった。

[1月～3月]

お部屋で転んだところにレゴブロックがあり膝にあざが出来た。ケガにつながる場合もあることを子どもに伝え、片付けの大切さを話していった。

午睡前、コットの上で遊ぶとケガをしてしまう可能性があることを伝えていった。落ち着かせる環境も作って行くようにした。

〈年間のまとめ〉

お部屋でのケガが多かった。

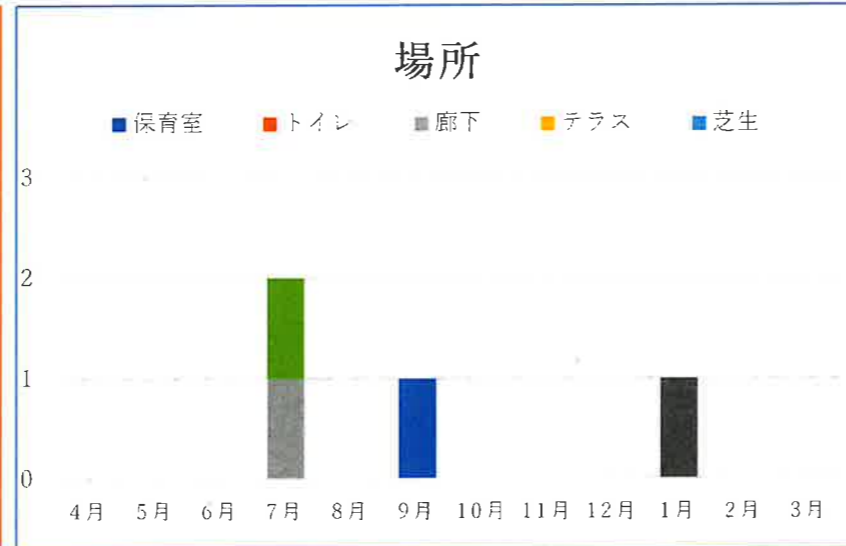
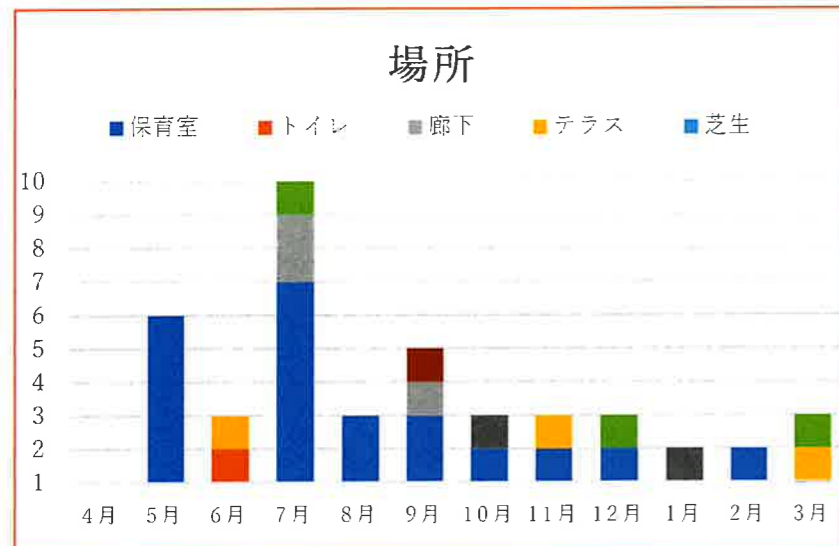
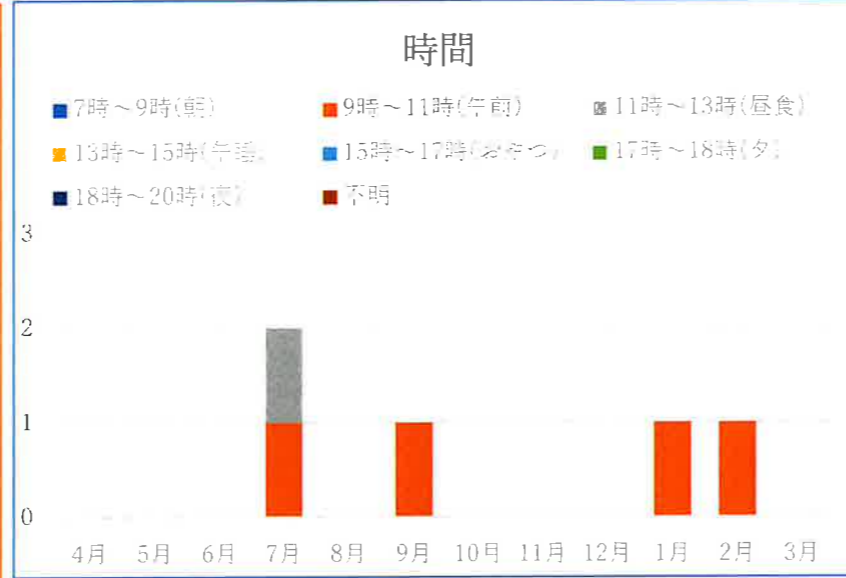
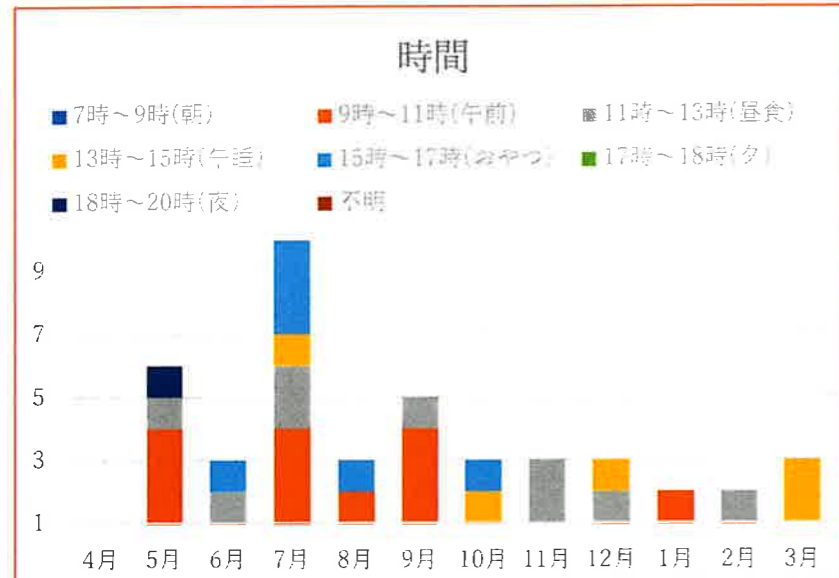
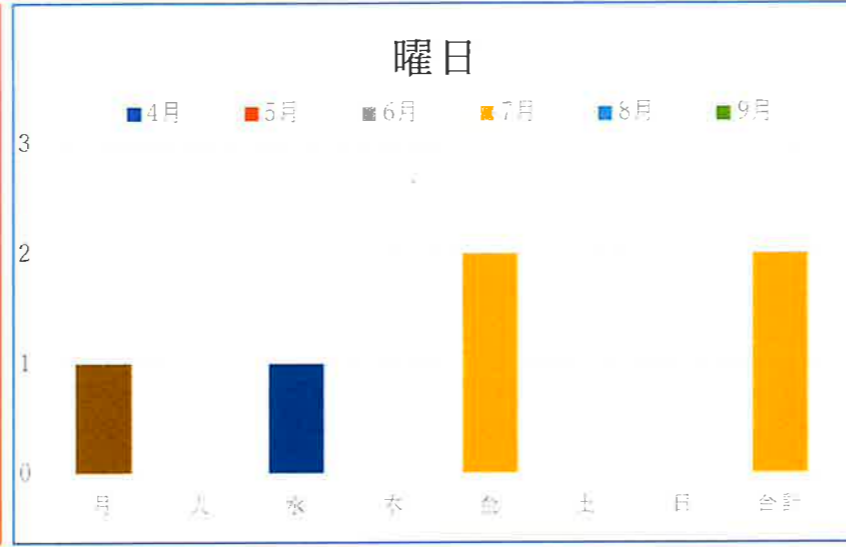
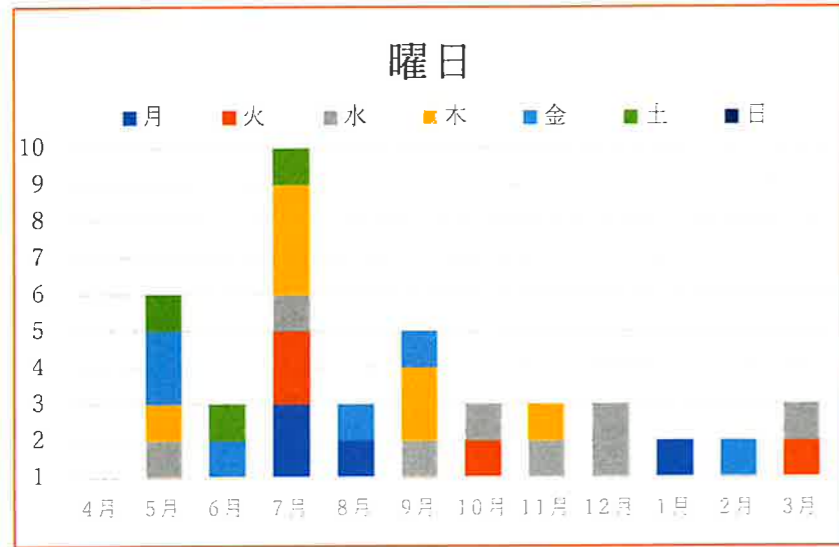
子どもの興味関心や行動に合わせた環境を整えていくことを目標にしている、また子どもたちと一緒に環境を整えていきたいと思った。

すべてのケガを未然に防ごうとせずに、小さなケガも体験になるということを職員も理解しながら、保護者とも共有し、大事故は防いでいきたいと思う。

〈太陽組 5歳〉

インシデント

ヒヤリハット



[4月～8月]

対象児自身による不注意から起きたケガである。こうしたら「できた」「失敗した」の経験をたくさん積むことでケガにつながらないように見守っていった。

友だちとの関わりが楽しくなり気持ちが高ぶったことで、普段は行わないようなことをしてしまう。楽しく遊んでいることは認めつつ、物事のよし悪しについて一緒に確認していった。

他児とのトラブルの際、力加減が難しく相手がケガをしてしまう。言葉で伝えること、また手指遊びや鬼ごっこ、様々な遊び通し、その経験から「加減」を身につけられるようにしていった。

ラップの芯を使った遊びからケガにつながっている。物を使い楽しく遊んでいるのは良いが、同時に危険も伴うことを伝え、再度確認していった。

[9月～12月]

遊びによるケガではなく、他児との行き過ぎた行為による件がほとんどである。危険なことを皆で確認しながらケガにつながらないようにしていった。

室内を走りまわったり、机やイスを重ね、隠れたりする(かくれんぼ)。室内での過ごし方を、年長の時間(午睡時)を利用し、皆で考えていった。

異年齢児とのトラブルが多く、一緒に遊ぶことが増えた反面、どのようにすれば良かったのか一緒に考えながら、異年齢の関わりが継続できるようにしていった。

[1月～3月]

室内で靴下をはいていることでケガにつながることもある。寒さ対策など、個々に合わせた対応をしているが遊びによっては危険が伴う為、脱いだ方が良いか、子どもと一緒に考えながら取り組んでいった。

他児と衝突したり、室内での不注意によるケガがあった。先月に引き続き、他児を意識して過ごすよう伝えていった。

〈年間のまとめ〉

自身による不注意でのケガ、動きや遊び方が徐々に大胆になりケガにつながるが増えた。

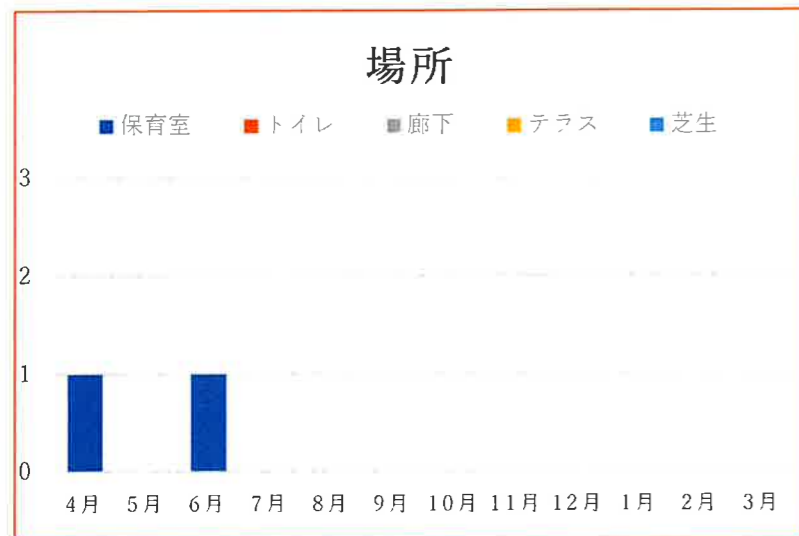
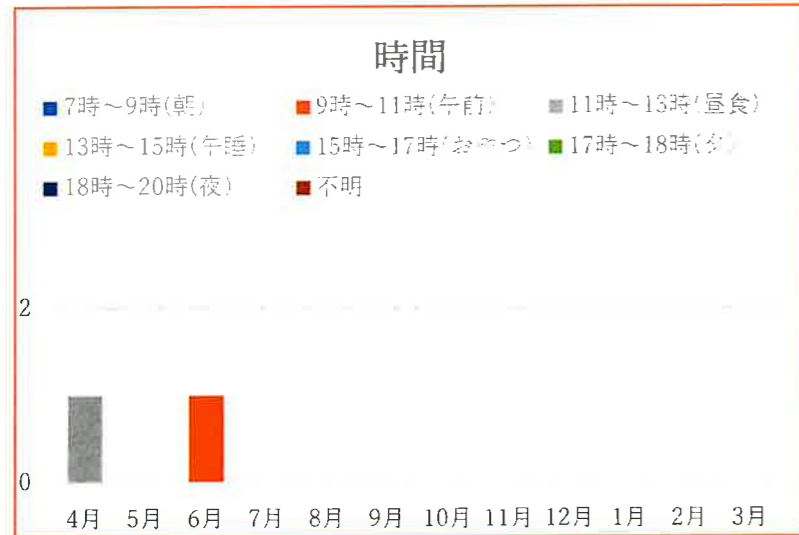
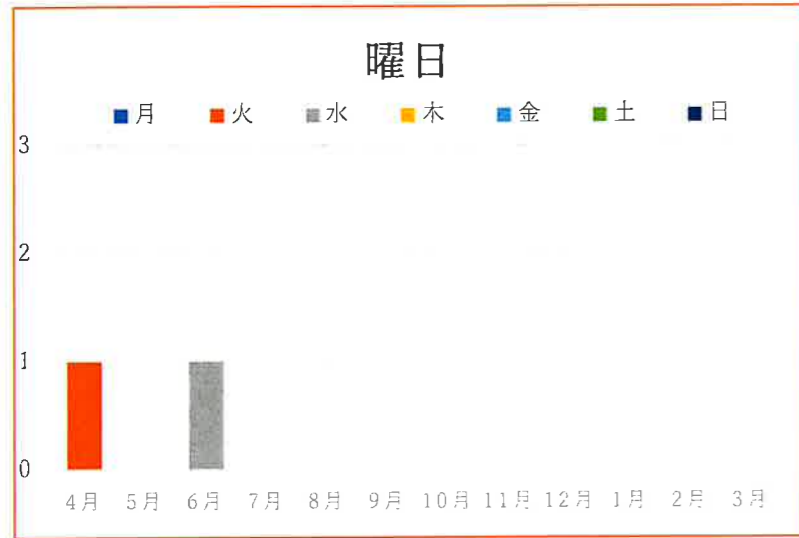
成長に伴ったことでもあるが、周りの物事、他児を意識して過ごせるようくり返し伝えていった。

時には、手が先にでてしまうことがあった。都度、職員が互いの思いを言葉で伝え合えるよう丁寧に関わり、子どもたちだけで解決できるようにしていった。

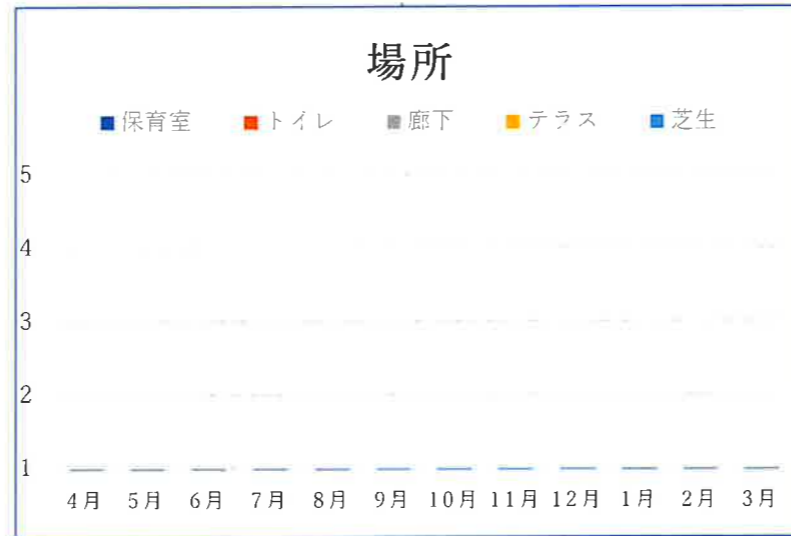
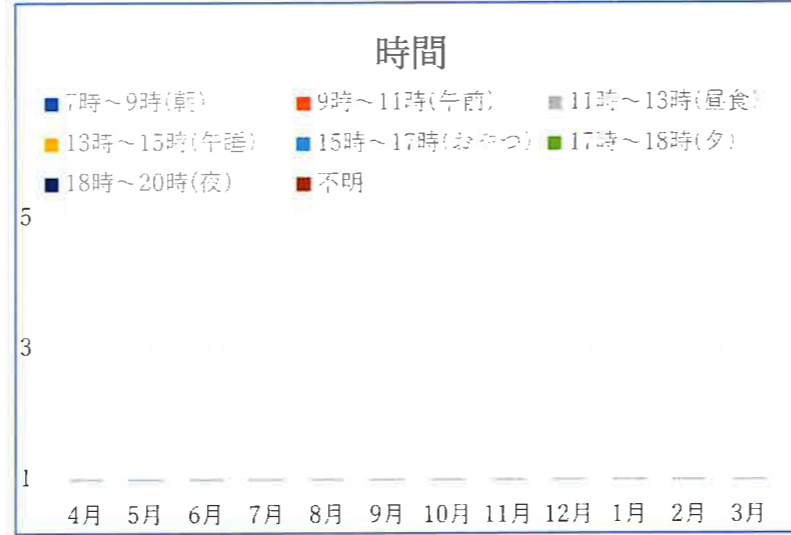
令和5年度 リスクマネジメント報告

〈子育て支援〉

インシデント



ヒヤリハット



〈子育て支援〉

内容と対応策

[4月] 保護者が主体となるイベントでは、作業中に子どもが保護者と離れることもあるため、保育者が目を離さないようにする。

[6月] 細かい道具等を使うイベントでは、子どもの興味関心と発達状況をみながら、一緒にできるもの、難しいものを見極め、難しい場合は危険のない場所で遊ばせるなどの環境調整を行う

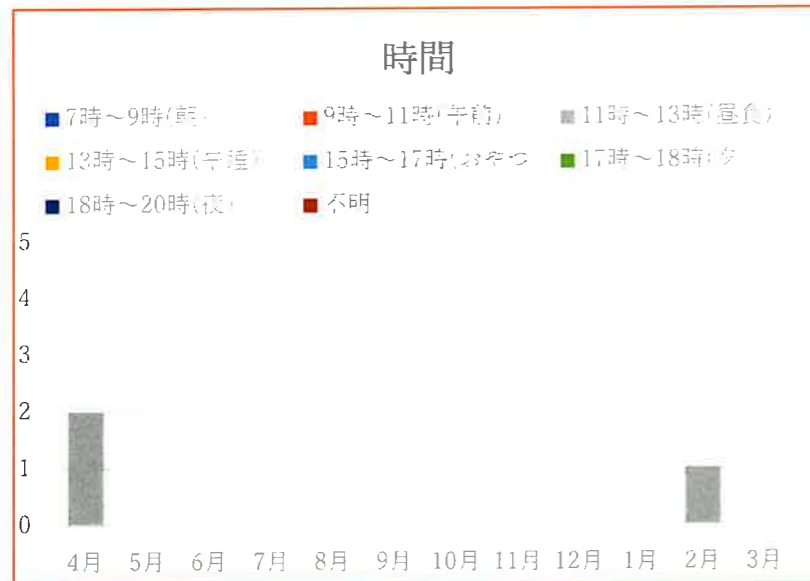
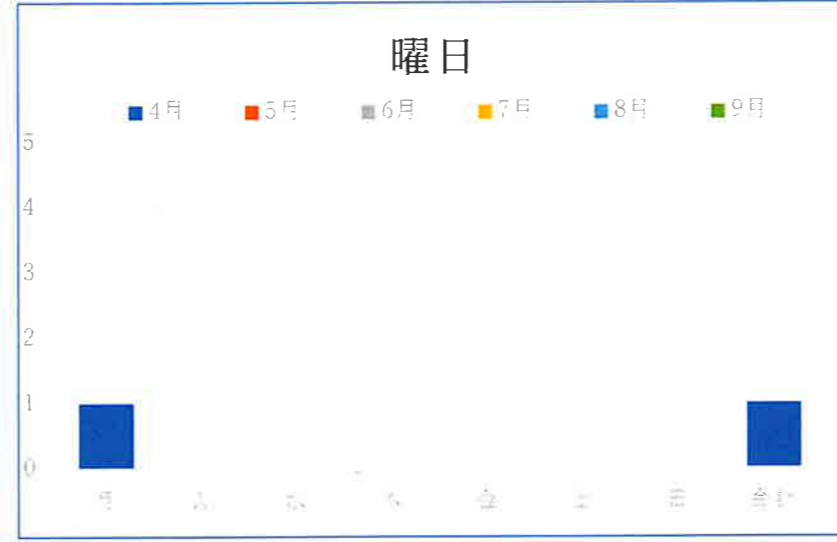
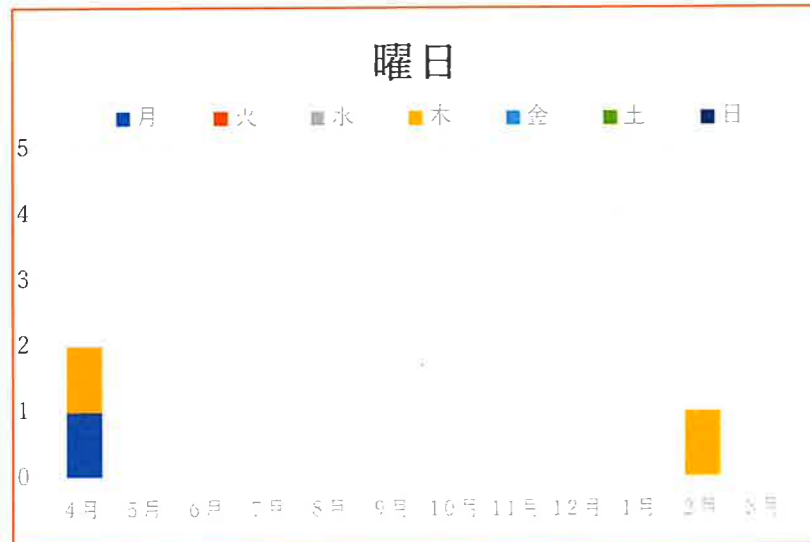
〈年間のまとめ〉

こどもの動きや危険性を保護者に伝えながら事故や怪我につながる状況を防げた。

令和5年度 リスクマネジメント報告

〈給食室〉

インシデント



〈給食室〉

内容と対応策

[4月] ①4/6 (木) インシ・昼食のうどんの上に小さな虫が付着していた。②4/17 (月) ヒヤリ・のっぺい汁の中に鶏肉の骨のようなものが混入していた。厨房の中で見つかる。盛り付け時だけではなく、配膳時にも異物がないか確認する。盛り付けから配膳までの時間をなるべく短くする。扉の開閉は速やかに行う。

[2月] 2/1 (木) 理事長の食べた切干大根のサラダの中に髪の毛が入っていた。直接責任者と担当で謝罪した。

〈年間まとめ〉

春夏になると、虫の混入が例年起こるので、早めにゴミ箱のハエ取りを設置するなど、対策をする。引き続き季節の変わり目は毛髪が落下しやすいため、各自粘着シートを使い、混入を防ぐ。その他、忙しくなると確認作業が疎かになりがちなので、気を引き締めて業務にあたる。